

2008年3月期 中間決算発表 アナリスト向け説明会質疑応答

平成19年10月31日
富士重工業株式会社

Q：自動車販売の売上について、上期に構成が悪化している要因を教えてください。

A：レガシィの台数が減少していることが大きく影響しています。昨年はレガシィのマイナーチェンジによってSI-DRIVEを搭載した高付加価値車種の比率が増え、その反動が現れたものです。

Q：営業利益、経常利益は50億円ずつ上方修正しているのに対し、当期純利益の上方修正が10億円になっている理由を教えてください。

A：前年には、固定資産の売却益があったため減少しています。

Q：SIAの営業利益について、下期計画が上期実績に比べて\$2M低くなっている理由を教えてください。

A：上期には、トヨタカマリの受託生産立ち上がりに関しての開発や設備の請負があり、売上、利益ともに増となりました。

Q：SOAの営業利益について、下期計画が上期実績よりも良くなっている理由を教えてください。

A：下期には、トライベッカのビッグマイナーチェンジがあり、インプレッサの販売も7、8月ごろから拡大すると考えています。例年、上期は旧モデルイヤーの売り切りでインセンティブがかさみ、下期には新モデルイヤーの投入でインセンティブが減少するため、利益が下期に偏る傾向にあります。

Q：生産状況や工場の手直し、設備の入れ替えなどについて進捗状況を教えてください。

A：矢島工場は登録車の輸出が好調で、生産が対応しきれないほどの注文をいただいております。現状では高操業で対応している状況です。今後の長期連休に簡単な設備投資をし、稼働率を上げていく予定です。最終的には来年の5月連休での対応を検討していますが、場合によっては夏休みまでずれ込む可能性もあります。能増については、急にするのではなく高操業を維持しつつ徐々に行っていきます。

Q：生産ラインの増設や工場新設についてはどう考えているか教えてください。

A：従来までネックとなっていた矢島の塗装工場を新しくしました。これにより生産能力を総合的に上げる余力ができました。

Q：海外販売の通期計画に関して、レガシィなどの販売台数が増加する計画にもかかわらず、構成が悪くなる要因を教えてください。

A：台数増に比例して構成が良くなるということには対策が必要だと考えています。構成悪化の要因としては主に以下の3点があります。

- (1) レガシィ、フォレスターの経年変化への対策が必要。
- (2) カナダドルがUSドルとほぼ同レベルになっており、円安については市場対策をして為替分を戻すように検討している。
- (3) 法規対応で売値に反映できないものがある。ディーゼルについても原価をそのまま価格には反映できないので、従来のターボ車のように限界利益率の高い車に比べると難しい。

Q：販売台数が2.2万台上方修正されているが、どこの国、地域で伸びているか教えてほしい。

A：新興国での台数が伸びています。ロシアで7千台のプラス、中国で4千台のプラス、イスラエルで5千台のプラス、シンガポールで2千台のプラスなどがあります。

Q：下期計画について、営業利益が同期比3割減となる要因を教えてください。

A：増減要因については以下の通りとなります。

- (1) 売上構成は、国内での数量悪化はあるものの、海外での数量が増え、また在庫調整などにより75億円のプラス。
- (2) 原価低減により25億円のプラス。
- (3) 諸経費は、製造固定費と販売管理費が増加し120億円のマイナス。
- (4) 試験研究費はレガシィや多人数乗りなどの新型車開発と環境対応により38億円のマイナス。
- (5) 為替は、USドルが3円の円高、カナダドルが6円の円安で29億円のマイナス（ユーロは昨年並みを想定）。

Q：ダイハツとの協業も含めて、軽自動車についてどのように考えているか教えてください。

A：当社の国内のお客様の3分の2は軽自動車ユーザーになりますが、軽自動車販売の拡大は難しく、登録車を拡大することで収益を固めていこうと考えております。商品ポートフォリオについてはあらゆる方法を検討しております。

Q：3カンパニーの営業利益計画を教えてください。

A：航空宇宙カンパニーについては、ボーイング787やエクリプス500の立ち上がりがありますが、立ち上がり時の収益は悪く、16億円の減益と考えています。3～4年後にプラスになると考えています。産業機器カンパニーについては、ポラリス向けが横ばい、富士ロビンをマキタに譲ったことなどから4億円の減益を見込んでいます。

以上